

実録  
焼きヨーグルト事件



karapaia <http://karapaia.livedoor.biz/>

conamonn

## はじめに

---

これは  
特に考えも無くレシピ投稿サイトに上げた物が  
予想外の道を辿ってしまった事を書いたものです。



Baked Yogurt Art

実録 焼きヨーグルト事件 番外編 <http://p.booklog.jp/book/104858>

外伝 海外英文サイト編 <http://p.booklog.jp/book/104958>

## ある日サイトニュースに掲載され瞬く間に拡散

---

レシピ投稿サイト。

何も無かった今までは、素人同士がお料理を披露し合い  
単純におしゃべりやレポートを楽しむだけの場だと思っていた。

しかし、2014年9月20日、  
そのサイトニュースに私の焼きヨーグルトレシピが掲載された。

<http://cookpad.com/articles/2733>

それまでは2009年upのごく地味なレシピだったが  
そのニュース掲載がキッカケとなり  
一日で、と言っても過言ではない程  
その文字通り爆発的に他のまとめサイトへコンテンツと共に一気に飛び火し  
その騒ぎを受け再度UPサイトニュースに取り上げられた。

<http://cookpad.com/articles/2778>

広まってしまったからにはこんな不完全な状態のままではいけないと  
1ヶ月程相当思い悩んだ私は、誰にでもよく固まる様に  
そして酸味が苦手な人用の対策と  
「食感はモッツァレラでは無くフレッシュチーズであると強く印象付ける為」の  
記述と共にレシピを大幅に変更した。

そして必死の思いで深夜に書き終え更新した翌朝、  
取材拒否し、これ以上の騒ぎになるのが嫌だったので  
「放送もしないで欲しい」と伝えていた  
ネット発料理の大元や出処を追って紹介する趣旨のテレビ朝番組に  
「焼きヨーグルト」が取り上げられたという事を知り目を疑った。  
テレビは苦手な家で置いていない為私は放送を見ていない。

この時は一体何が起こったのか全く理解出来ず  
何故他の人物が出演し間違ったレシピも一緒に放送されたのか、  
どうしてことごとくこの人が私であると周囲から思われてしまうのか、  
本当に数ヶ月間、ただただ困惑するのみであった。

テレビとはそもそもこういうものかと、  
自分さえ我慢していればと諦めかけた頃  
その放送の半年以上も経ってから、番組は私に取材拒否された直後  
後発の人を取材し、その時点ではどういう意図かはよく解らなかったが  
＜この人物は発信元ではない＞という

「見ている人にわかりやすくはっきりとした」言葉、又は情報を出さない状態で放送し  
尚且つ番組HP上に同様の紛らわしい内容を載せた為、  
番組の今まであった放送の趣旨や内容上

「この出演人物が大元である」、すなわちこの人が私であると  
当然の如く人々が誤って認識してしまったのだという事がようやく判明した。

## ツイッターで認証おとり画像に利用される

---

その暫く後、画面に出てきた認証ボタンをクリックすると  
ツイッターIDを乗っ取られてしまうので気を付ける様に、というニュースがあった。

見たい情報に誘われて認証を押しては危険だ。。。。  
そんな忠告があちこちで聞かれる様になっていた。

そんな折、私の流行した焼きヨーグルトレシピと共に  
投稿サイトに使用を許諾しているコンテンツの料理写真がまとめサイト等へ広がった為  
それも一緒に巷に出回っており、レシピを知りたがっていた人が多くいるのが悪用され  
その後どんな事が起こるか予想できない様な怪しい認証ボタンを押させる為の  
おとり画像に写真が使われてしまっていたのである。

とても嫌だったが何も行動を起こせないでいた。  
その時著作権を持っている者はツイッターに削除要求が出来る、と教えてもらったのだが、

今考えるとそうしておけばよかったと思う。  
しかし次から次へと予想外の出来事に見舞われた私は  
落ち着いてそんな事ができないでいた。











その人物の焼きヨーグルトレシピURLを尋ねたが、その回答は拒否された。  
故にどういう人が番組に出演し、どんなレシピを公開しているのかは不明だ。

## 塩トマト事件

---

私は公開日記に

「この番組から同じ様な目にあった人はいるのかもしれない」と冗談めいた事を書いたのだが、それは実際にいたのだった。

私の焼きヨーグルト事件の少し前、同じくUPサイトレシピが取り上げられその直後、B社から本を出されてしまった「塩トマト」というレシピがある。

その出版されたレシピ本、言葉をひっくり返しただけの「トマト塩」の著者は番組内で考案者のレシピと酷似した塩トマトレシピを紹介した料理家で、番組内ではそのレシピは料理家の「考案」ではなく「監修」と表現されていた。

レシピUPサイトに「塩トマト」を取り上げる旨連絡していたにも関わらず「投稿サイト名」と「そのレシピ作者IDネーム、薄荷パン」は完全に伏せられた放送であった。

これでは、視聴者に「この番組内で調理監修した料理家がトマトを塩漬けした調味料を考え出した人」と思われてしまう。

これは私がお話するより詳しい記載のある本人のブログをご覧ください。

↓ 「塩トマト事件」

<http://plaza.rakuten.co.jp/hakkapan/diary/201506070000/>

## そっくりなトップレシピと共に三度目のサイトニュース掲載、そこで知る料理家によるレシピ本発売

---

私の焼きヨーグルトレシピが  
三度目のサイトニュースに載った。

<<http://cookpad.com/articles/7520> 進化を続ける「焼きヨーグルト」がいま人気再燃中！>

そのニュースのトップレシピは、  
私のものを簡単にして書き写したという風な  
他のレシピであった。  
こういう、単に拡散しただけのレシピを拾ってきて  
そのまま自分のレシピとしてUPする人はやはり居て、  
後にこの件に関してサイト側に質問し  
それに対してもらった苦しい回答については後述する。

さてその三度目のニュースであるが、  
また焼きヨーグルトの第二ブームが来たと言う。  
何の事かと思うと、本が出た、と言うのだ。

私は前の年に電子書籍を出版していたので私の本かと思ったのだが  
そうでは無かった。

B社から、C氏という料理家により  
焼きヨーグルトのレシピ本が出たのだと言う。

検索してみると、次から次へと出てくるのは  
本の宣伝関連の記事であった。

その数カ月後にはD社より同じく焼きヨーグルトのレシピ本  
(著者E氏)も出版された。



酷似レシピについて質問\*しかしサイト側からのお咎め無し「オリジナル性がある」ではなく「オリジナル性無しと判断をすることができない」 < 疑わしきは罰せず >

---

三度目のサイトニュースのトップレシピは、  
別の人による、私の物とそのまま同じ内容のレシピであった。

商業利用はどうかと思うが素人レシピには  
その手の物はゴマンとあるのでいちいちチェックはできない。  
しかし一度、一寸サイト側に聞いてみたかったのでとりあえずふたつレシピを挙げ、  
こういうものに対してどういう対処をしてくれるのか尋ねると

- ① レシピ
- ② レシピ

その作者に「このレシピを書くにあたって見たものはあるか？」と問うメールを送ったが、  
①からは返事が無かった、  
②は参考にした物は無いとの回答だったので削除しない、

そして両方に「オリジナリティを認める」ので削除はしない、了承してくれとの回答だった。

どうも腑に落ちなかったので、  
このふたつのレシピの、一体どのあたりにオリジナリティが認められるのか？と返信した。

すると

「ご指摘の2レシピについては、オリジナル性があるのご案内したが  
正確には、オリジナル性が無いという判断をすることができなかった」という回答が来た。  
最初からそう言って欲しかった。

疑わしきは罰せず、と、そういう事らしい。

。。。。。。。。。。

後日色々調べてみると過去にもこういう事例はあった様で  
その方は事の詳細をブログに載せていた。  
模倣されたと声をあげた方が悪く思われ  
強制退会にされる恐れがあるという当時の特殊な事情が有り  
サイト側には言っていない、という内容だった。

[http://blog.livedoor.jp/sevam\\_a/archives/50206075.html](http://blog.livedoor.jp/sevam_a/archives/50206075.html)

こうやって2005年頃に色々書き残している方は他にもいらして、私にとって大変精神的にも支えになった。



担当者に伝えると

そうですか、ご理解頂けて良かった、という風な  
ホッとして嬉しそうな感じの返信メールが来た。

ここで私は周りにはいる人に、とにかく何処で何をするにも  
まずはそのサイトの利用規約をよく読め、と言われた。  
しかし規約の文章というのは非常に回りくどく、理解が困難な文章ばかりであった。  
こんな物はこういう事態に陥らなければ読む事は無かっただろう。

「コンテンツ」とは何ぞや？  
そんなところから始まった。

規約は、読み比べてみるとサイトにより大分違いがある。  
他でのレシピ公開を禁止するというとても厳しいところもあるし、  
反対に何かあった時は対価を支払う、とまで書いてあるサイトもある。

ある企業の担当者が

「個人的に」と言って抜粋しメールで送って来たのは  
やはりこのレシピ投稿サイト規約の「知的財産権等」、  
コンテンツを許諾するという部分であった。







## B社 レシピ本著者C氏のHPにコメント

---

B社 焼きヨーグルトのレシピ本著者 C氏のホームページにコメントを入れた。

コメント欄が無かったので、情け無くも

C氏の元でお仕事したい人募集の為の求人欄から書いた。

「このレシピは投稿サイト発のものです。

そういう場合サイト側に断らなくてはなりませんが、連絡はなさっていらっしゃいますでしょうか？

(注※その後サイト側からは、B社から事前に連絡は受けていないとの回答をもらっている。)

わたくしは、発信元レシピの作者です。

この投稿サイト内でお仕事をなさるC様が、そのサイトレシピで本を出版なさったのを大変残念に思います。」

そういう内容だったと思う。

著者のネットやテレビにおけるおちゃらけた言動に

相当な怒りと悲しみを持って感情に任せての、

読み返しもしないで送信ボタンを押した

今から考えれば酷い文面だった。

向こうは、何だコイツは！？と思ったであろう。

C氏からの返事は全く無かったが、

大分してからこの本を企画したB社編集者からのメールが入った。

のっけから、雰囲気は非常に悪かった。

電話で連絡を、と2度メールでそのやり取りを繰り返されたのである。

>電話でお話を伺います。

メールをお願いします。

>電話をしてきて下さい。

お話では考えがまとまらないのでメールをお願いします。

そんな風だった。

電話での話では、どうしたってこういう件で素人のこちらが完全に不利に決まっている。





著者の名前で出している本は著者に問い合わせるべきであると  
弁護士さんから教えてもらっている。

最初からとても雰囲気が悪かった。

そしてその直後、追伸の様な形ですぐまたメールが入った。

「この件、弊社の考えも含めメールで何度も往復するつもりは無い。  
本来電話か直接会って話すべき内容だと考えるからである。」

とあった。







「素人レシピを頻繁にターゲットにしている、というご指摘だが  
弊社としてはレシピUPサイトだけを追っているわけではなく、  
TwitterやInstagram、ブログ、TVなど  
ありとあらゆる情報ソースから、流行のものを本にしている。

今回の指摘で、繰り返し「プロが素人のレシピをターゲットにしている」とあるが、  
個人的には近年ますますプロと素人の境目はあいまいになっていて、  
定義づけは難しいと感じる。

ただ、改善点としては、今後何か流行のキーワードで本を出す際には、  
そのレシピ開発者がはっきりと分かる場合には、  
本の出版前に何かしら本人にコンタクトを取り、別の著者を立てる場合でも、  
コンセンサスを得るよう努力するべき、という方針でいる。

また、取材が入った場合には、  
このキーワードがレシピサイト発であることを取材者（TV局等）に伝える  
ことも必要であると考えている。

上記、改善点として伝え、返事とする。」

## B社 編集者との最後のやり取り

---

その後もう一度メールのやり取りがあった。

編集者は、「誰だって、そしてあなたのレシピの中にも他の物を参考にしたものはあるだろう？揚げ足を取る訳ではないが」と書いて来たが、その場合我々の間では普通出典を記し、そのレシピへリンクする様にしておくのが一応の礼儀となっている。プロが「商業利用」する場合は素人より更に気を配る事が必要だ。

「レシピの価値は肉付けにある」等とも平然と書いてあったが、「肉付け」するのは良心的な配慮をした上でなされるものであろう、と言いたい。









## D社レシピ本著者E氏のHPにコメント

---

D社 レシピ本の著者 E氏のオフィシャルホームページに  
B社の時と同じ様な内容でコメントを入れた。

焼きヨーグルトは投稿サイトレシピです。  
サイト側に了解は取っていらっしゃいますか？  
私は発信元のレシピ作成者です。

そのような内容だったと思う。

E氏本人からはC氏と同様連絡は無かったが  
この暫く後に代替りのD社編集者からメールが入った。

投稿サイト側からは、D社からは書籍出版についての  
事前連絡は受けていない、との回答があった。



D社 編集者様

本日、そちらの本を入手致しました。

P.9 の 作り方ですが

量、水切り時間、焼成温度、焼成時間 が  
わたくしが推奨し、ネットに載せている方法と全く、同じです。

上記の点について、ご説明をお願い致します。

.....

編集者返信

本書の全てのレシピにおいて

貴方をはじめ他の方のレシピをコピーすることはしていない。  
焼きヨーグルトの作り方は、インターネット上の作り方を参考にしながら、  
時間や焼き方の試作を先生に依頼した。

その後試作をして、

- ・ 作りやすいこと
- ・ 失敗しないこと
- ・ 用途にあわせて使いやすいことを基準にレシピをまとめた。

インターネット上で170度30分で焼いている人が多かったのも

「作りやすいレシピ」としての判断材料とした。

.....

私は2014年、メディアによって間違っ流布している物もあったため  
責任を感じ電子書籍を出版していた。

E氏のレシピ本の基本の作り方はサイトレシピとだけでなく

私の出した本の記載とも

まるまるそっくり被ってしまっているのだった。

参考文献についての記載が無ければ

必然的にこれは元から著者E氏の考案によるもの、と見られてしまうだろう。

レシピがネットに広がってしまった結果がこういう事になるのか、と私は言葉を失った。











そしてこちらの心情を気遣う風でも全く無く  
言い訳のみに終始する文章には呆れてしまう。













「コンセンサスを得るよう努力すべき」

では、コンセンサスを得られなかったらどうするのだろうか？

実際私は、「コンセンサスを得られなかった場合どうするのか？」とB社編集者に問うたが「ケースバイケースなのでお答え出来ない」という回答が返って来た。

また、そのレシピ料理を店等に出され商業利用されても文句は言えない。

焼きヨーグルトは既にレストランで出されている。

これは著作物ではなく

皆が利用してこそ文化が発展するアイデアである故保護はされない。

本当に自分だけの物にしたかったら、ネットにも本にも記載しないで

特許を取った秘伝レシピとするしか無い。

「抗議されたのを機に

これからは作者にコンセンサスを得るべく努力する方針であるが

今回あなたには事前にそうしなかったのは良くない点であった」

という風には、どこも言ってはくれなかった。

ひよんな事から知り合ったとても知識の豊富なサイト運営者の方に  
レシピの扱いについて書かれたURLを教えてもらう機会があった。  
この方には色々ととても感謝している。

情報サイトnanapiより要約。

著作権というものは「アイデア」ではなく「表現」を守るための権利である。  
料理レシピの場合、文章は「表現」、作り方は「アイデア」という扱いになる。

作り方が一緒のレシピであっても、  
文章や写真がオリジナルのものであれば、著作権の侵害にはならない。  
一言一句同じ文章で書かれたレシピは、著作権の侵害とみなされる。  
自分の言葉・写真・イラストなどで作り方を表現するようにすれば侵害ではない。

レシピは人の立派な作品である。  
似たようなものはあっても、  
その人が一生懸命考えたオリジナルのレシピは、唯一無二のものとなる。  
そんな自分のレシピが「著作権や特許がない」という理由だけで使われたら、  
あまりいい気分はしない。

クックパッドのような多くのレシピを抱えるサイトでは、  
「レシピの生い立ち」という項目を設けることで  
そのレシピのオリジナリティを確保している。  
しかしそれでも、レシピ部分の著作権に関しては法的拘束力を持たないので、  
個人の良心に委ねられている。

いくら「アイデア」には著作権がないとはいえ、  
「作り方はパクって文章や写真だけ自分で用意しよう」という姿勢は考えもの。  
自分の作品としてレシピを発表する以上、「アイデア」も「表現」もオリジナルになるよう、  
一人ひとりが良心をもって工夫することが大切。







私のやりたい事は

自らが壊れてしまいそうになるこれ以上の追求をする事では無く  
レシピを考え出す事だったはずです。

ベーコンのお布団にくるまって



布団蹴りやがった



かなり遠くまで蹴ったようだ



karapaia <http://karapaia.livedoor.biz/>

この本を書くにあたり、各方面の方々に  
色々貴重な事を教わり助けて頂きました。

弁護士さん達からのお話もとても有意義でした。  
皆様、本当に有難う御座居ました。

実録 焼きヨーグルト事件 番外編 <http://p.booklog.jp/book/104858>

外伝 海外英文サイト編 <http://p.booklog.jp/book/104958>



## 焼きヨーグルト事件

<http://p.booklog.jp/book/99964>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/99964>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ